



頼まれごとは、試されごと。

ここ最近は、熊本の新プロ野球チーム火の国サラマンダーの球団立ち上げやモルック九州大会の実行委員長などスポーツに関する仕事を多く担わせていただいている。それに加え、1年目と変わったことは、多くの方から陳情を頂けるようになったということです。

私の好きな人物に中村ふみあきさんという方がおられます。「頼まれごとは試されごと」という言葉はその方が常々仰っている私も常日頃から心掛けている考え方です。頼まれることに対して全力で事に取り組み、相手の想像を上回る結果を残せという教えです。もちろん、お願いされたことに対して全て相手の希望通りできるとは限りません。しかし、どんなに小さな声にも耳を傾け、その方のために自分にできる精一杯のことをやることが大事だと思っています。

政治は結果責任であるという言葉にもあるように、



尖閣諸島を守る街頭活動 9月27日 COCOSA 前にて



地域での清掃作業 7月18日 JA 東部支店青年部の皆様と



済々黌英靈顕彰慰靈祭 10月24日



インター学生との懇親会 10月29日



第一回モルック九州大会実行委員長として 11月22日



南部隼平を応援する済々黌有志の会発足式にて 11月21日

南部しゅんぺい後援会 会員募集 詳しくは南部隼平事務所 096-295-7972 までお問合せください。

プロフィール

南部 隼平

(なんぶしゅんぺい)



自宅にて（生後6ヶ月）



小学校の運動会（小学2年）



野球少年時代（小学6年）



高校野球部メンバーと（高校3年）

【資格】理学療法士・ケアマネジャー

【趣味】野球・ゴルフ・マラソン・音楽鑑賞・読書

【家族】ピアニストの妻 長女

【座右の銘】全力投球



理学療法士時代



南部隼平事務所 Tel 096-295-7972 Fax 096-221-6182

〒861-8010 熊本市東区上南部1丁目2-40 nanbu@smartgrowth.co.jp http://nanbu-shunpei.jp/



今年一年、皆様には大変お世話になりました。

本年は熊本にとって苦難の1年となりました。

コロナに打ち勝ち、災害からの復旧復興を成し遂げ、さらに県民の希望となる「九州独立プロ野球リーグ」を成功させるため、日々精進していきます。

自民党7月豪雨被災地視察 くま川鉄道の崩落した第四橋梁付近にて

新型コロナウイルス、豪雨災害と熊本の今後の先行きが見通せない中 9月議会にて2回目の一般質問をさせていただきました。 令和2年9月熊本県議会定例会一般質問では、今私が深く関わっている「スポーツによる地方創生について」と、「地元熊本市東部地区の活性化に向けた取り組み」を中心に執行部を正しました。

詳しくは内面をご覧下さい▶



豪雨災害支援、復興について

今年の豪雨災害では65名以上の方が亡くなられました。さらに多くの方が自宅に帰れず仮設住宅での生活を余儀なくされています。私も今まで5回以上ボランティアや視察等で被災地に入りました。

球磨川流域の治水問題は2008年の川辺川ダム撤回以降、有効な治水対策を講じることができませんでした。その結果、尊い命と県民の財産が奪われ、行政を含む県議会としても責任を痛感しています。

命を守るためにダムも含めたハード対策、事前の避難体制や周知方法などのソフト面の両面から対策を講じ、徹底した議論を行わなければなりません。

しかし、議論を先延ばしすれば、そこに住んでいた住民の方の生活再建が進まないこともあります。政治は結果責任。的確で迅速な決断がリーダーには必要です。そしてこの災害は私の住む熊本市でも起こる可能性があります。私は防災の基本は「想定外を想定する」ということだと考えています。時間のかかるハード対策と徹底した避難体制の構築を早急に進めるべきだと考えています。

ダムによる治水とは？

ダムの機能には大きく分けて治水機能と利水機能とに分かれます。ダムによる治水機能の中で、重要なのが洪水調節機能です。一般的にこの機能はダムに近い上流では効果が高いものの、下流にいくにつれてその効果が薄くなると言われています。

メリットは、ダムによらない治水と比べると比較的短期間に効果が得られること、一定量水を貯める機能があるため、河川に流れる流量を調整できることなどがあります。

デメリットは建設費や維持費がかかること、ダム建設部の集落が消滅してしまうこと、一定量の水が貯まると異常洪水時防災操作（いわゆる緊急放流）により、流量が増加し洪水の危険性が高まることがあります。

ダムによらない治水とは？

例えば河川掘削・堤防の嵩上げ・遊水池など、一般的に皆さんが思いつく治水対策や放水路（人工的に川を作り海へ流すことで水が一つの川に集中しないようにする）など、様々な対策を組み合わせて行う治水のことです。メリットはダムのデメリットである集落の消滅を防ぐことができる、さらに異常洪水時防災操作の心配がないことなどが挙げられます。

デメリットとしては対策が全て完成するまでに50年以上の年月がかかり、費用面でもダム以上の莫大な財源が必要になるにもかかわらず、効果が限定的であることなどがあります。



「防災情報くまもとハザードマップ／洪水」より引用

これらの様々な検証が行われ、知事は11月に「命も環境も守る、流水型ダムの建設を含めた、緑の流域治水」という方針を掲げられました。もちろん、ダムを作るだけではなく、河川掘削や堤防の嵩上げなど早期対策を行なながら、中長期的には環境に配慮した流水型のダムの建設を国に求めていくというものです。冒頭にも述べたように二度とこのような水害で犠牲を出してはなりません。さらに流域住民の総意である球磨川流域の環境にも最大限配慮した決断であり、我々もその方針を支援し、今後も是々非々で議論を行っていきます。

南部隼平一般質問（抜粋）令和2年9月29日（火）

1 スポーツによる地方創生

質問 来年3月に九州独立プロ野球リーグが開幕予定であり、熊本にも新球団が誕生する。さらに本県では、昨年、ラグビーワールドカップ、女子ハンドボール世界選手権大会が開かれ、大成功を収めた。その成果やノウハウを次世代に引き継ぐことが重要である。2大会のレガシーを継承、展開するには、官民一体で、全国的なスポーツ大会やイベント、キャンプや合宿等の誘致を専門的に行う組織が必要である。

そこで①九州独立プロ野球リーグについての所感、②スポーツを通じた交流人口の拡大を図るための推進体制と今後の取組の方向性について、知事の考え方を尋ねる。

答弁（知事） ①熊本初のプロ野球球団の誕生は、県民を勇気づける明るい話題であり、大変喜ばしく期待している。球団の今後の展開に合わせ、県全域を巻き込んだ交流の拡大や地域活性化へつながるよう、球団関係者としっかり話し合ってまいり。②2つの国際大会のレガシーを継承し、県民に元気を届け、経済の活性化を図るために、官民一体となったスポーツによる誘客を推進するスポーツコミッションの設立に向けた取組を進めてまいり。

南部 この球団は野球をする前に、地域に貢献することを、第一と掲げてスタートするので、ぜひ県としても、支援をお願いしたい。スポーツコミッションでは、熊本独自のスポーツによる地方創生を成し遂げていただきたい。

熊本県民球団を作るもう一つの目的は新球場の建設である。野球と言うツールで活性化し、球場建設の民意を醸成し、新球場建設につなげていく、という想いがある。具体的な提案についても今後さらに、検討を進めていく。

2 熊本市東部地域の振興

（1）東バイパス周辺の渋滞解消への取組

質問 国道57号線東バイパスは慢性的な渋滞が起こり、周辺の生活道路でも渋滞が問題となっている。道路計画を進める上で、新有料道路整備などの長期計画、都市計画道路や個別交差点の立体化などの中期計画、ソフト対策や交差点改良などの短期計画というそれぞれのフェーズに合わせた対策を同時進行で進めることが重要であり、国、県、市が相互に連携を強め、実行することが求められる。そこで、①熊本都市圏の渋滞に対する中長期的な検討状況、②東バイパス周辺の短期的な対策の国、県、市の取組を土木部長に尋ねる。

答弁（土木部長） ①中長期的な計画を実現するには、多様な観点から具体化し、その過程で明らかとなる様々な課題の解決が必要

である。このため、関係者間でさらなる検討や議論を行い、スピード感を持って進めてまいり。

②国、県、熊本市で役割分担し、国は、東バイパスの新南部交差点などの右折レーンの延伸、熊本市は、御領2丁目交差点などの新たな右折レーンなどの整備に着手している。

県は、パーク・アンド・ライドの利用促進のため、今年度、乗換拠点となる新駐車場やそれに連携する路線バスなどを検討し、来年度以降、その結果を基に社会実験を実施する予定である。また、交通管理者の県警と連携し、信号機周辺に高性能車両感知器を設置し、車両が進む方向別の交通量データを基に、信号制御の見直しや右折レーン延伸などの改善に取り組む。

南部 昨年度末の、高速交通ネットワーク推進特別委員会で、当時の土木部長が、「来年度（今年度）までに計画を策定する」との答弁をされた。ぜひ前向きに早急な計画の策定を進めていただきたい。

東バイパスの渋滞対策については、国、県、熊本市共に短期的な対策について、連携を強め事業が進んでいることであるが、まずはできることを県と政令市の垣根を取つ払って、早急に進めて頂きたい。

交通渋滞での経済的損出は、単純に人口換算すると熊本県で1000億円近くの損失がある。この損出をなくすためにも、抜本的計画の策定を重ねてお願いする。

（2）空港アクセス鉄道開通による地域活性化

質問 昨年、アクセス鉄道構想が発表され、私の地元熊本市東部託麻地区では特に運動公園周辺に予定されている中間駅の開設は非常に関心が高い。新駅ができることには、交通アクセスの改善、新たな開発による地域の活性化という2つのメリットがある。そこで、中間駅の活用について、どのような考え方

①場所の選定、②その活用について計画を進めるのか、企画振興部長に見解を求める。

答弁（企画振興部長） ①長年の課題である県民総合運動公園へのアクセス改善を目的としており、さらには、免許センター利用者や地域住民の方々の利便性を考慮し、検討を行っている。

②県では、平成28年に大空港構想Next Stageを策定した。中間駅周辺の活性化も、本構想に基づき、関係市町村と連携し、地域の特性や資源を最大限活用できるよう取り組んでまいり。

南部 この事業を進めていく上で、協力をいただく地元住民の皆様に対しては、より詳細に説明を尽くしていく必要がある。

この空港アクセス鉄道事業は熊本市に住む私たちにはもちろんのこと、菊陽、益城、西原など周辺市町村においても早期実現への期待は、大変大きい。将来の子供達のため、事業をさらに前へ進めて頂きたい。

（3）熊本県民総合運動公園の再開発（要望）

質問 熊本県民総合運動公園は、1978年供用開始されたが、整備初期に作られた施設や設備に関しては、再編計画やそれに伴う再整備は、ほとんど行われていない。さらに、その時代の必要性によって造成を繰り返してきたため、施設の間に集落が存在していることや、駐車場が分散しているなど、利用者にとって使いやすい施設とは言い難い。時代とともに、県民のスポーツに対するニーズは変化していく中で、それに対応できているとは言えないのではないか。東京オリンピックでは、様々な新しい競技が採用され、その中で注目すべき競技として、スケートボードがあげられる。今現在、熊本市内には、競技を練習できる場所がないため、やむなく路上や民間駐車場、公園等で練習を行うことにより、住民からは苦情が上がり、社会問題となっている。しかし、運動公園のような管理された場所の中で、競技ができる環境を整備できれば、このような社会悪のようになる状況は、防げるのではないか。今回紹介した、スケートボードに限らず、新しいスポーツに目を向け、時代に応じた県民の使いやすい運動公園を考える必要があるのではないか。

今回、空港アクセス鉄道整備という大きな事業を進めるにあたり、同時に、新しい運動公園整備計画の策定を行い、時代に即した新しい競技に対応できる、そして、駐車場とその周辺道路整備を含め、地域住民との共存を十分配慮した計画を、ぜひ土木部と教育委員会が連携し行って顶くよう強く要望する。

3 新学力向上調査の導入について

質問 2019年度の全国学力・学習状況調査で、本県は全国平均を上回ったのは小学校国語のみであり、その他は平均以下という大変厳しい状況にある。本県では2019年度より新たな学力調査の取組を開始されているが、コンピューターを使用して実施するテスト、CBTに非対応、個人の経年変化が見えづらいなど、課題も見られる。そこで、本県の学力調査における現状と課題、そして今後の取組について、教育長に尋ねる。

答弁（教育長） （略）今後、先進自治体の学力調査の情報収集など、不断に検証や研究を重ね、調査のさらなる質の向上に向けて取り組んでまいり。

南部 教育現場でのデジタル化のスピードとそれに伴う環境の変化は、新型コロナウイルスの影響で、急激に変化していくと考えられる。世界に通用する子供たちを育てることは、今後、熊本の未来に向けて非常に重要なポイントとなる。現状の学力調査についての検証を、継続的に行うとともに、足りない分野である、特に「学習の伸び」に対する評価、さらに生徒個々人の非認知機能の

評価とそれに伴う効果的な学習指導方法を運動させる仕組みの構築を今後検討して頂きたい。

4 庁内のデジタル化の施策について

質問 今県では、昨年、県官民データ活用推進計画が策定され、随時デジタル化への取組が進められている。一方、デジタル化の守りの部分であるセキュリティー問題について、外部からのハッキング等の攻撃をどう防ぐか、データの信頼性をどう担保するかの2点の解決が重要である。

そこで、①府内の取組の進捗、②セキュリティーへの課題への対応、以上2点を企画振興部長に尋ねる。

答弁（企画振興部長） ①高度情報化推進本部で全庁的に議論を行い、デジタル技術を活用した働き方や業務プロセスの改革などに取り組んでおり、昨年度新たに、RPAによる業務の自動化、オンライン会議システムの利用促進に向けた環境整備などに取り組んでいる。②方針に基づき平成28年度から、インターネット、府内業務ネットワーク、個人番号利用事務ネットワークの3つに分離している。また、市町村と共同で自治体情報セキュリティクラウドを構築し、インターネット接続に対し、不正侵入の検知や不正サイトへのアクセス防止など、高度な対策を実施している。データの信頼性確保の重要性は認識している。現在、国のトラストサービス普及に向けた議論の動向やサービスの普及状況等を注視しつつ、情報セキュリティ確保に取り組んでまいり。

南部 私は、今の新しい生活様式での、デジタルトランスフォーメーションの変革の流れは、大きなチャンスだと感じている。今後も府内をあげて、現場の意見を取り入れながら、さらなるデジタル化の推進を進めていただきたい。セキュリティーの問題については、行政機関は民間企業にもまして、厳格な情報管理と外部攻撃からの防御が必須となる。府内でのセキュリティーの管理はもちろん、対外的な申請が電子化されることで、その情報の正当性を担保することが重要になる。職員のみなさんへの知識の共有と周知を行い、個々人のセキュリティー意識の醸成を促して頂きたい。



熊本県民球団【火の国サラマンダーズ】の使命

● 球団設立の経緯

私は選挙活動の際、「新球場の建設」と「熊本にプロ野球チームを作る」という公約を掲げていました。

熊本にプロ野球チームを作るという構想は今から4、5年前から球団社長の神田と話をしていました。また、この球団を作るもう一つの目的は新球場の建設です。熊本に県民に愛されるチームを作ることで、球場建設への県民運動を高めていくという目的があります。

昨年の秋、神田が福岡のBリーグのバスケットチームを退任するタイミングで、「今このタイミングでやらなければ絶対にできない」と思い、周りの方々を説得して野球団の準備会社を設立しました。



球団名募集のプレスリリースにて神田球団社長と

HINOKUNI Salamanders

● 球団のミッション

球団のミッションは野球を通して①子ども達に『夢』を与え、『夢』を持つことの大切さを伝えること、②地域に密着し、愛され地域の公共財となり熊本の『活性化』に注力すること、③地震・水害・コロナウイルスでダメージを受けた、愛する熊本を野球の力で元気にし、日本中・世界中から憧れられるよう『ブランディング』に貢献することの3つです。

私の政治信条は「一人一人の夢が実現できる熊本を作る」ということです。プロ野球選手を夢見る若い人材を発掘し、夢実現を後押ししていきます。

● 今後の展望と未来について

将来的には県民にとって欠かせない存在となることで、県民に愛される、そして強いチームを作り上げ、熊本県内に止まらず、日本を代表するチームに育てていきたいと思います。

● 現状は？

今現在は、応援していただくスポンサー集めに奔走しています。またトライアウトを終えてチームの選手獲得もほぼ完了しています。

来年3月20、21日の開幕に向けて、球場調整、行政との連携に向けた動き等も同時進行で行っています。さらに、今後様々な話題作りも行なっていきますので新しい情報にご期待ください。



11月7日、人吉球場で合同トライアウトを実施。43人が参加しました。

【火の国サラマンダーズ】の中期目標

初年度の正式加盟は熊本・大分の2球団。中期的には九州沖縄8県に展開目標。22年からリーグ戦実現。アジアとの交流も積極的に推進！

